府立西成高等学校
校長　山田　勝治

平成 30 年度　学校経営計画及び学校評価

1　めざす学校像

「学びと支援の新たな結合による第三の教育」推進

エンパワーメントスクールと知的障がい自立支援コースの融合

〇生徒の希望と誇りを育むチカラのある学校
〇第１のタイプ「学び直し」と第２のタイプ「個別の支援」のどちらをも基礎とする新しいタイプの教育を推進する。
〇そのことにより大阪の地域社会を支え地域社会に参画する原動力となる市民を育成する。
〇中途退学を３%以内にする。

2　中期的目標

1.　学習力をエンパワーする

学習力向上 PT を中心に教科横断型の研修グループを形成し、全国の先進的な取組みに学ぶ研修を積極的に行う。また、西成区を中心に近隣の義務制学校に指導と支援の方法を学ぶ。

〇 特に、授業で生徒を動機付けること。
〇 授業力向上という視点から生徒の「学習力」向上の視点に切り替える。
〇 多面的な評価方法の開発で生徒の学習意欲を伸ばす。
〇 生徒の学習力を伸ばすため、ICT による教育活動の「ハードル」を下げる
〇 プチスタディーコーナーを設け自学や質問などの学びのスペースを教室外にも設ける。

【評価指標】

①学習到達度を測る教育産業のテストの活用による実態把握（エンパワー診断テストの成績・理解度の伸び率が計りにくい）
②学校教育自己診断における「工夫された授業」「わかりやすい授業」への肯定感　（わかりやすい授業肯定感　68.8%、1 年生に関しては 78.2%）←H29 調査
③生徒授業アンケートでの授業に対する肯定感（H29 調査　工夫された授業の項目　学校平均 3.22　肯定率 87%超）

2.　キャリア教育でエンパワーする

〇 挫折や失敗からリカバーするチカラを育成する。
〇 アルバイトを導入とした動機付けから、2 年次のインターンシップを通して、段階的・実践的な職業教育を実施する。
〇 社会人基礎力の養成を行う。（1 年次からの人間関係作りなどを含めた）

【評価指標】

①外部人材（CC 等）による評価アセスメント
②進路指導に対する自己診断アンケートでの満足度 75%以上　（H29 調査保護者　75.8%、生徒　67.7%）

3.　シチズンシップ教育でエンパワーする

〇 人権（西成差別）・反貧困・多様性（多文化・LGBT など）・障がいのある生徒など当事者が多数在籍する。仲間の理解を通して世界を把握することができるよう取り組みを進める。
〇 18 歳選挙権（政治的教養を高める教育）を通じて、市民としての権利と責任を身に付ける。
〇 「平和・人権・環境・国際問題」などを学ぶ学校として ASPnet(ユネスコスクール)への登録をめざす。

【評価指標】

①学校教育自己診断における人権教育等への肯定感
②学校行事など生徒会活動への肯定感

4.　「地域まるごと」エンパワーする

〇 「産業社会と人間」「エンパワーTIME」「総合的な学習の時間＝チャレンジ」の発表会を実施する。
〇 地域防災の取り組みを地元自治体とともに小中高の連携で行う。

【評価指標】

①エンパワーメント発表会（仮称）の実施時におけるアンケート
②学校運営協議会での評価

5.　運営改善で教員力もエンパワーする

〇 「チーム学校」の取り組み先駆的に行ってきた西成高校として、「チーム西成高校」（SC,CC,SSW、カフェ事業、学校運営協議会）の積極的運営を行う。
〇　分掌体制の改編を実施したのでその運用スタイルを構築する。
〇 「教職員連続学習講座」を月 1 回実施し、エンパワーメントスクールの教員として必要な力を身につける。

【評価指標】

①学校教育自己診断（教職員用）による評価

府立西成高等学校

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析［平成 31 年 1 月実施分］	学校運営協議会からの意見
生徒対象の学校教育自己診断から 〇全 19 問について、すべての項目で前年度を大きく上回り、成果が良く現れている。 急激に各指標が向上した理由は、平成 25 年度再編整備発表以来、中学校からの評価の揺らぎが大きかったが、今年 4 年目を迎え生徒層が安定した。そのため、教員による指導の安定も見られるようになったことではないかと推測している。 ※学校満足度　「エンパワメントスクールにきてよかった？」 そう思う　3 年　56%　2 年　55%　1 年　51% ややそう思う　3 年　34%　2 年　34%　1 年　36% あまり思わない　3 年　10%　2 年　10%　1 年　11% まったく思わない　3 年　0%　2 年　1%　1 年　2%	第１回（6 月 16 日） 〇中期的目標にある「学習力」「社会人基礎力」のことばについて賛同していただけた。また今後の取り組みの中で「障がい」についての様々なご意見をいただき、企業・保護者の立場から貴重なご意見をいただけた。さらに学校ＨＰの活用による広報のあり方や、職業体験や防災教育への取り組について前向きなご意見をいただけた。 第２回（11 月 17 日）での協議より 〇ロードマップについて、戦略をしっかり立てられたという印象を持った。そのための方策や振り返りを充実させて欲しい、など前向きな助言をいただいた。 第３回（1 月 26 日）での協議より 〇すべての項目で目標とする成果指標をクリアしている。(評価◎) 〇キャリア教育重視の方針は結構だ！しかし、ジェンダーの視点はどうなっているのだろうか？ジェンダーによる働き方への壁や生き方における壁についての理解や取組み。さらにハラスメントに対する考えや救済方法、対処方法などについての取組みが見えないので、ぜひ取り入れてください。 〇経営者の視点から、「働き方改革」に関する取組みをひとつは取り入れて欲しい。 などの要望や参考意見をいただきました。今年度は 2017 年度に新たに設定した「中期目標」の２年目でもあり、基本的に学校経営計画については了承しているが、以上のような観点、補強意見を取り入れて次年度 3 年目の重点目標を打ち出すようにとご意見をいただきました。

3　本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1．学習力をエンパワーする	〇生徒のやる気を引き出す授業づくり	①　先進事例の調査研究（学習力向上 PT） ②　学習力向上 PT による学び続ける教員グループによる研修体制づくり ③　多面的評価や「やる気を引き出す」評価に関する研究 ④　授業の構造化・視覚化・共同化を推進し、「学びのユニバーサルデザイン」を進める ⑤　授業を柔らかくするファシリテーションの導入（研究・研修） ※今年度この項目を主管する学習教務課の学習力向上 G を設置した。シラバスの実質的な見直しによる「インクルーシブな学習」の推進をはかる。 ⑥　ICT の利用促進を通じて、わかりやすい、認知しやすい授業のあり方を開発する。	■到達度を測るテストの結果、基礎的学力の到達度。＜これ以後の定点観測＞ ■生徒授業アンケートによる評価や学校教育自己診断での評価（工夫された授業の展開やわかりやすい授業）の肯定感＜わかりやすい授業→H29 調査 1 年 78.2％、2 年 61.3%、3 年 65.1％＞	①　広島大学附属高校、草津東高校和歌山県立熊野高等学校、立花高等学校など視察済・予定（◎） ②　自主的研修「ユニバーサルデザインな学び」について。（〇） ③　取り組めていない（△） ④　②に同じ（〇） ⑤　研修はおこなったが、研究は出来ていない。（〇） ⑥　活用が促進した。（◎） ■学校教育自己診断 工夫している先生が多い（肯定意見） 3 年 80.9%、2 年 77.9% 1 年 76.0%　（◎）

府立西成高等学校

2．キャリア教育でエンパワーする	○社会人基礎力（コンピテンシー）の育成	①　育むべき「チカラ」（コンピテンシー）を確認し、「産業社会と人間」「チャレンジ（総合的な学習の時間）」を含めたエンパワーメントタイムのトータルプランを再構築する。 主管：進路指導課キャリア育成 G による「西成高校ロードマップ」の策定 ※インターンシップのカリキュラム化 ②　遅刻・欠席等を支援の視点から状況改善させる。（生徒支援員会を通じて、要対協や外部の福祉機関と連携） ③　大阪府中小企業家同友会との連携で社会貢献する意識の育成も図る。	■　「産業社会と人間」「チャレンジ」の授業に対する授業アンケート、学校教育自己診断アンケートの肯定感（生徒７０％以上） H29調査→ 生徒肯定 67.7% 保護者肯定 75.8% ■　引き続き、遅刻数の減少に取り組むが、欠席者の逓減に重点を置く（20%削減） ＜H29 調査：遅刻者 5878 名＞	①　ロードマップ完成（別紙参照）(◎) ②　遅刻改善※21%減少　(◎) 2018年４月～2018年12月 ----------3780 2017年４月～2017年12月 ----------4792 ③　同友会に所属する社長・経営者に会社経営にまつわる話を伺う、また高校生の時に描いた夢と現実との折り合わせ方についてなどの講義をいただく。（◯） ■　「産業社会と人間」「チャレンジ」への肯定感 ３年 89.67% ２年 77.92% １年 70.58% 効果については学年進行で実感している。　（◎）
3．シチズンシップ教育でエンパワーする	○生徒支援委員会を軸に当事者支援を推進する。 ○生徒会を軸とする活動の中で社会参加・社会参画の意識の醸成	①　仲間 HR などで仲間づくりの促進 ②　SDG’s を目指す人権・平和・環境・国際問題について、幅広く学べるように工夫する。 ③　トータルプラン（西成高校ロードマップ）を作成する中でユネスコスクールとしての取り組みを盛り込む。	■　西成高校ロードマップの作成（学習計画・人権学習・学校行事などトータルな教育方針の確立公表）　作成委員会を設置。 ☆ロードマップ９月までに作成 ■　学校教育自己診断における「成長実感」及び「人権教育等の実施」についての肯定感を維持向上させる。 「成長実感」目標→3 年生で 60%達成（H29 53%） 「人権教育等の実施」目標 →3 年生 70%達成 （H29：66.7%）	①②③　いずれも成し遂げることが出来ませんでした。（△） ■　ロードマップは完成 →実行組織も提案済。 経験の少ない教員も教育活動の狙いと関連性を実感できる仕立てになっている。　（◎） ■　成長実感　３年生肯定感 80.94% 人権教育等の実施　３年生肯定感 92.06% (◎)
4．「地域まるごと」エンパワーする	○中学校連携の推進 ○地域防災等への取り組みを通じて、小中高地域連携を強める	①　授業の相互見学や学習会への参加しあいを通じて、区内 6 中学校との緊密な連携を図る ②　「エンパワーメント学習発表会」の企画実施（産業社会と人間、エンパワーメント TIME、テーマ別人権学習などの取り組みを校内外に発信する）	■学校運営協議会や区内中学校からの評価による肯定感 ■当日のアンケートによる評価	「生徒さん達がとてもいきいきしていてとても楽しそうでいいなと思いました。」 「絶対にこちらに入学させてやりたい！とあらためて思いました。」 「学校全体の校内が明るい様子が良い。」「明るいと気持ちも明るくなる。見てきた学校で１番良かった。」 ＜学校説明会での保護者付き添い教員アンケートから＞　(◎) ②エンパワメント学習発表会は当日の朝まで実施予定でしたが、インフルエンザ蔓延による学年閉鎖などの影響で中止としました。発表内容は何らかの方法で公開する予定です。（◎）

府立西成高等学校

5．運営改善で教員力もエンパワーする	○機動的・機能的な学校組織の確立と運用	① 各種会議の目的・位置づけを明確にし、運営方法の研究と意思疎通・意見交換のメソッドを開発する。 ② ICT を活用した連絡調整方法の確立 ③ 校務分掌体制を再構築する ④ 学校プラットフォーム化を推進し、チーム学校の取り組みを推進することで、教職員の業務の軽減を図る。	■学校教育自己診断（教職員）による評価（肯定感７５％目標） ②広報企画課企画 G を中心に９月までに方針決定。 ③各種委員会の目的や必要度を精査し、統廃合を検討する。 ④必要な調査統計を整理し、府教育庁に働きかけを行う。	教職員アンケート ○問題行動時に組織的な対応 肯定感　80% ○分掌学年の間で円滑な連携 肯定感　43% 計画的な組織作りが必要　（○） ①②については現在検討するだけに終始している。　（△） ③経験の少ない教職員が中心の本校でどのように業務の引継ぎや課題や成果の継承がおこなえるのか、職員体制についてさらに研究が必要となる。（◯） ④再編整備課を通じて、改革についての具体的なレポート（報告）を上げている。 ※年度途中から大阪メディカルサポートセンターのラインケア支援チームの応援を受け、長時間勤務問題について取組を続けている。 管理職チーム、コアチーム（労安委中心）チーム、現場チームを指定し、H31 年 10 月を目途に長時間勤務に関する意識改革のためのアンケート調査、研修、意見交流を実施している。（◎）